

獣害対策集落環境点検の推進

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

湖東地域では、平成19年度に湖東地区獣害対策地域協議会を設立し、平成20年度に多賀町ならびに彦根市が、平成21年度には甲良町で獣害対策の協議会が設立されるなど、獣害対策に関する関係機関との連携が深まるなど活性化してきています。その背景として、鳥獣害防止総合対策事業(国庫)への取組もさることながら、市町が農業者と協同して獣害対策に取り組む姿勢を示してきている点が大いだと思います。当課では市町と連携し、農業者に対する研修会等による啓発活動と集落環境点検およびその後のフォローを行いました。

【普及活動の成果】

集落環境点検の事例(1)

彦根市の西清崎集落は、荒神山のふもとに位置する集落で、数年前からイノシシの被害に苦慮されております。イノシシ被害防止のため、県事業により荒神山の周囲をフェンスで囲ってありますが被害は一向に減少せず、荒神山周辺では放棄田が増加しています。平成21年11月7日に集落環境点検を行ったところ、フェンスの際まで竹林等が迫っており、フェンスは数カ所で大穴が空いているなど、イノシシが容易に侵入できる現状を把握できました。また、縦横に伸びる水路を使ってイノシシが移動していることもわかりました。集落に対して、竹林の伐採等による緩衝帯の設置、フェンスの補強、和牛放牧、飼料稲の栽培など様々な提案を行っているところです。



集落環境点検の事前説明

集落環境点検の事例(2)

多賀町の榑崎集落は、平成20年度に鳥獣害防止総合対策事業(国庫)により恒久柵を設置したことにより、サル・シカ・イノシシによる被害が激減しました。しかし、どこからかシカが侵入し、山にもどるため柵を壊すなどの被害が見られました。そこで平成21年12月13日に集落環境点検を行ったところ、犬上川を渡り柵の切れ目からシカが侵入していることがわかりました。また、その侵入口は雑木林で、付近のほ場のヒコバエはほとんどシカに食害されており、シカにとっては安心できる場所であることがわかりました。集落では早速雑木林の伐採や恒久柵の切れ目にネットを張るなど対策を実施されました。



犬上川を渡ってシカが侵入

まとめ

西清崎集落のように様々な対策を提案できる集落では、集落内で対策を実施しようとする合意形成や、持続的な協議・活動を行うためのモチベーションの維持を図るための支援をしていかなければならないと考えています。

また、榑崎集落のようにすでに恒久柵を設置している集落では、柵を設置すれば「終わり」ではなく、その柵の維持管理や突破された場合の対応策がとれるよう、獣害対策を実施する集落への啓発等を行っていきたいと考えています。

特色ある地域特産物の開発と育成の取り組みへの支援・魅力ある農業・農村の創造に向けた取り組みへの支援